



ぴよんぴよん  
うさぎとごさく

2月6日

Sudden Fiction Project

高階 經啓  
hirotakashina

## 2月6日のおはなし「ぴよんぴよんうさぎとごさく」

むかあし。

あるところに、ぴよんぴよんうさぎという、たいそう たちのわるい うさぎが おったそ  
うな。

♪ぴよんぴよんうさぎの あるいた あとにや  
ぺんぺんぐさも みあたらず。

と、わらべうたにも あるように、ぴよんぴよんうさぎが やってくると なにからなにまで  
ずっだらぼいの ぼいに なってしもうた。

やまの ふもとに はたけが あって、ごさくどんという たいそう きのいい おとこが  
せっせ せっせと くわを ふるって おった。そこへ ぴよんぴよん ぴよんぴよんと か  
わいい あしおとを ならして ぴよんぴよんうさぎが やってきた。

ごさくどんは まじめな はたらきものじゃった。おっかあが しんでは たったひとり  
はたけしごとに せいを だし はたけと いえを いたり きたり するばかり。だから  
ぴよんぴよんうさぎの ことも しらなんだそう。むらの もんは みーんな しとった  
のにな。

「おい吾作。抜け作田子作の吾作どんや」

「誰だあ、おらあ、そんな長え名前じゃねえぞう」

「そっちじゃねえよボンクラ、どこ見てんだこの薄らトンカチが。こっちだ足元だ」

「たはあ。こらあ、えれえ。めんこいうさぎどんじゃあねえか」

「めんこいって言うなめんこいって。何が腹立つってそれが一番腹立つんだよ白雲頭め」

「なんだあ、そったらめんこい顔して、口のまあ悪いことたらねえなあ」

「チンタラ喋ってんじゃねーや。ここは『まんが日本昔ばなし』かってんだべらぼうめ」

「ここは柏木村ってんだが」

「たはあーっ！ 『柏木村ってんだが』ときたか！ 聞いてねーよこんなうらさびれた貧民の吹  
きだまりみてえな腐れ集落の名前なんか。ってか、名前あったのかよってなもんで」

「名前は、あるなあ」

「けっ！ まだるっこしくていけねえや。おい、田子作」

「吾作だあ」

「てっとりばやく要件に入るぞ。おめえこの畑、売らねえか」

「ぱくぱくぱく？」

「この野郎、上等じゃねえか。聞こえねえ振りしやがった。おい家に火いつけられてえのか」

「そらあ困る」

「聞こえてんじゃねえか。じゃあ売れ。この畑売れ。どうせ耕したってろくなもん取れやしねー  
んだからよ」

「ここで取れた大根は、はあ、そんじょそこらの大根にはねえくらい辛いんだ。そば食う時に  
やもってこいだ」

「るせーんだよ減らず口。そのしまりの悪い口とけつの穴あ、しっかり締めてよく聞きな。おれ  
さまはこの屁のつかい棒にもならねえ畑をなんと一両も出して買ってやらあ。おめえなんざ一  
生かかっても手に入れられっこねえ大金だ。え、どうでえ兄弟、いますぐ売んな。さもねえと明日  
には半額だ。さあどうする」

「うさぎどん、あんたあ、おらの、兄弟なのか？」

「かあーっ！ なんだい？ この村あ、時間が止まってるのかい？ 空気が薄いのかい？ 音が  
伝わるのに普通の十倍かかるのかい？ 話の要点が途中で霧にまかれちゃうのかい？」

「霧は、出ねえなあ。もっとも、前の日がなまああったかくて、急に冷え込んだ朝なんかには……  
」

「聞いてねーってんだよ、このノロマウィルス感染症」

「おらあ吾作だあ」

「おめえよ、こんなところで埋もれていいのか？ 一両あればすごいぜ。女が寄ってくるぜ。気に入ったスケとはめまくり、入れたり出したりしゃぶったりよがらせたりの大破廉恥大会だっておめえのもんだ。いい服着てよ、カメラでもテレビでもパソコンでも欲しいもん買ってよ、うめえもんだって食い放題だ」

「うめえもん、くいてえなあ」

「そこかよ！ おめえが反応するのはそこだけかよ！ まあいいや。おれあな、おめえさんの真面目な働きぶりをずっと見ていてよ、思ったんだよ。『こいつあ、もったいねえ。みがけば光る珠だ。ここがイギリスならブリテンズ・ゴット・タレントに出演させてがっぱり稼がせてやるところなんだが』ってな」

「ここはイギリスじゃ、ねえなあ」

「知ってるよ歩く泥人形！ だからよ、おれはおめえさんにいい思いをさせてやりてえんだよ。だから悪いこと言わねえ。この畑を売って都会に出てみな」

「うふん。そうかあ」

「そうさあ、いまがおめえさんにとって、チャンスなんだぜ。わかるか、逃しちやいけねえ転職のタイミングってものがあるんだ。」

「裏山の木の世話もあるだでなあ」

「じゃ、その山も合わせて二両で買ってやるから、ちゃちゃっと世話しちやいな」

「明日、裏山の下草を刈らねばなんね」

「おう、じゃあ明日の夜また来る」

「夏にはツル切りをするんだあ」

「夏だ？ 馬鹿かおめーは。なんで夏の話、してるんだ」

「もう少ししたら枝打ちもある」

「もう少しってどのくれーだ」

「そんな次は、間引くんだ。そのころまた来てくんろ」

「だからどのくれー待つんだ」

「枝打ちは三年か五年、十年経ったら最初の間引きだ」

「ウラシマ現象か？ え？ 準光速移動か？ 失われた十年か？ わけわかんねーよ。自分でも何をツッコンでいいのかも見失っちゃうよ。あのな。おれはよ」

「畑の下のウランのことなら、誰にも手出しはさせねえよ」

「んだ、この！」

「これは、はあ、このままここに埋めて置くんだ。このあたりにウランなんかいない。誰にも掘らせねえ。柏木の村みんなで決めたことなんだあ」

「かああああ。知ってやがったのか。まったく柏木のやつらは食べねえゴンタクレだ。とんだ時間の無駄遣いをしちまった。あばよ。死ぬまで畑に埋もれてろ！」

くやしがつて すてぜりふを のこすと ぴょんぴょんうさぎは ぴょんぴょん ぴょんぴょん やまの なかに にげて いった そうな。ごさくどんは せなかを のぼして こしをとんとんと たたくと 「あー めんこい うさぎと はなすと こしが いたくて かなわん」と いったそうな。ぴょんぴょんうさぎが また むらに きたのは もっとずっと のちのはなし。この はなしは これで おしまい。

とっぴらぼんの しゃん。

(「転職のタイミング」 ordered by A T-san/text by TAKASHINA, Tsunehiro a.k.a.hiro)

## 感謝の言葉と、お願い&お誘い

---

Sudden Fiction Project（以下SFP）作品を読んでいただきありがとうございます。お楽しみいただけましたでしょうか？ もしも気に入っていただけたらぜひ「コメントする」のボタンをクリックして、コメントをお寄せください。ブログへの登録（無料）が必要になりますが、この機会にぜひ。

「気に入ったけどコメントを書くのは面倒だ」と言うそのあなた。それでは、ぜひ「ツイートする（Twitter）」「いいね！（Facebook）」あたりをご利用ください。あるいは、mixi、はてな等の外部連携で「気に入ったよ！」とアピールしていただくと大変ありがたいです。盛り上がります。

※星5つで、お気に入り度を示すこともできますようですが、面と向かって星をつけるのはひょっとしたら難しいかも知れませんね。すごく気に入ったら星5つつける、くらいの感じでご利用いただければ幸いです。

現在、連日作品を発表中です。2011年7月1日から2012年6月30日までの366日（2012年はうるう年）に対して、毎日「1日1篇のSFP作品がある」という状態をめざし、全作品を無料で大公開しています。→[公開中の作品一覧](#)

SFP作品は、元作品のクレジットをきちんと表記していただければ、転載や朗読などの上演、劇団の稽古場でのテキスト、舞台化や映像化などにも自由にご活用いただけます。詳しくは「[Sudden Fiction Project Guide](#)」というガイドブックにまとめておきました。使用時には、コメント欄で結構ですので一声おかけくださいね。

ちょっと楽屋話をすると、7月1日にこのプロジェクトを開始して以来、日を追うごとにつくづく思い知らされているのですが、これ、かなり大変なんです（笑）。毎日1篇、作品に手を入れてアップして、告知して、[Facebookページ](#)などに整理して……って、始める前に予想していたよりも遥かに手間がかかるんですね。みなさんからのコメント、ツイート（RT）、「いいね！」を励みにがんばっていますので、ぜひご協力お願いいたします。

読んでくださる方が増えるというのもとても嬉しい元気の素なので、気に入った作品を人に紹介して広めていただけるのも大歓迎です。上記Facebookページも、徐々に充実させてまいりますので、興味のある方はリンク先を訪れて、ページそのものに対して「いいね！」ボタンを押してご参加ください。

10月からは「1日1篇新作発表」の荒行（笑）を開始し、55作品ばかり書き上げる予定です。「[急募！お題 この秋Sudden Fiction Project開催します](#)」のコメント欄を使って、読者のみなさんからのお題を募集中です。自分の出したお題でおはなしがひとつ生まれるのって、ぼくも体験済みですが、かなり楽しいですよ！ はじめての方も、どうぞ気軽に遠慮なくご注文ください（お題は頂戴しても、お代は頂戴しないシステムでやっています。ご安心を）。

こんな調子で、2012年6月30日まで怒濤で突き進みます。他にはあんまりない、オンラインならではの風変わりな私設イベントです。ぜひ一緒に盛り上がってまいりましょう。

ぴょんぴょんうさぎと ごさく

<http://p.booklog.jp/book/43644>

著者 : hirotakashina

著者プロフィール : <http://p.booklog.jp/users/hirotakashina/profile>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/43644>

ブックログのpapier本棚へ入れる

<http://booklog.jp/puboo/book/43644>

公開中のSudden Fiction Project作品一覧

<http://p.booklog.jp/users/hirotakashina>

電子書籍プラットフォーム : ブックログのpapier ( <http://p.booklog.jp/> )

運営会社 : 株式会社paperboy&co.